

世田谷区立世田谷中学校
校長 前田 浩 様

世田谷区立世田谷中学校
学校関係者評価委員会
委員長 吉田 秀 敏

令和7年度 学校関係者評価報告書

本年度の学校関係者評価について、以下のようにまとめたので報告する。

1 アンケート実施状況（実施期間：令和7年10月28日～11月10日）

対象者	回答数	配布数	R7 回収率(%)	R6 回収率(%)
生徒	482	568	84.9%	81.0%
保護者	321	568	56.5%	45.4%
地域	23	35	65.7%	62.9%

2 評価対象ごとの評価結果の分析

肯定的な回答（A とても思う B 思う）の割合合計が8割程度を目標達成の判断目安として協議した。肯定的な回答の割合合計が判断目安よりやや低い項目であっても、実態と学校の取組状況を総合的に判断した。

なお、今年度から、生徒向け区共通設問「学ぶことは楽しい」以外のすべての質問項目を各学校で設定することになったため、項目によっては経年変化が比較しづらい状況になっている。

[1]生徒

「学習について」「生活について」「学校行事について」「先生について」は、8割程度以上の肯定的な回答であり、ほぼ目標を達成していると考えられる。

その中で、肯定的回答が特に多かった項目は、

「学校行事は、楽しく、達成感がある」	(A+B 93.0%)
「先生は、映像やタブレットなどのICTを活用した、授業をしている」	(A+B 90.9%)
「学校行事によって、仲間との連帯感が強まった」	(A+B 90.7%)
「先生は、課題について、自分で考えたり、友達と話し合ったりする時間を授業の中で取っている」	(A+B 90.0%)

以上の回答結果から、学校生活の様々な場面において、生き生きと過ごしている生徒の姿と、それらを支える教職員の姿が想像できる。

一方で、否定的な回答（C あまり思わない D 思わない）や回答できない（E 分からない）が多かった項目は、

「私は、学び舎の小学校や保育園と関わる機会があった（ねいろを除く）」	(C+D 32.3%、E 13.9%)
「私は、学校や地域でボランティア活動に関わる機会があった」	(C+D 26.9%、E 7.9%)
「私は、主体的に（計画的に、調整しながら、粘り強く）学習に取り組んでいる」	(C+D 26.6%、E 3.3%)
「私は、『自分の将来について考え、目標をもち、実現のための努力をしている』」	(C+D 25.7%、E 5.8%)

であり、全般において主体的な取組が低調である様子が見てとれる。

[2]保護者

568通のアンケートを配布し321通の回答があった。回収率は56.5%となっている。昨年度と比較して、11.1%増加しているが、まだまだ回答数、回答率ともに十分とはいえない状況である。WEBでの回答形式となってから、各校で苦勞をしているようであるが、さらに多くの保護者から回答を得られるように、保護者会、三者面談等の機会を通じて、引き続き保護者の協力を強く呼びかけていく必要がある。

肯定的回答が特に多かった項目は

「学校行事は、子どもにとって、楽しく、達成感があると思う」	(A+B 92.2%)
「『これからの社会に必要な社会性を身に付け、さらに伸ばしていく』は、子どもに合った適切な目標だと思う」	(A+B 91.3%)
「大地震や台風接近時の、本校の対応を理解している」	(A+B 90.7%)

冒頭で述べたように、昨年度までとは質問項目が異なるものも多く、単純な比較はできないが、肯定的な回答が80%を超える項目が増加している点は学校運営の成果の表れだと考える。

一方で、否定的および「分からない」という回答が多かった項目は、
「子どもは学習の評価や相談を活かし、学習の意欲につなげていると思う」(C+D 36.7%、E 6.2%)
「キャリア・パスポートを見て、子どもの目標や考えがわかる」(C+D 32.7%、E 11.5%)
「子どものことを教員に相談しやすい」(C+D 22.1%、E 9.7%)
「保護者会や三者面談などを通じて、子どもの学習状況や学習評価について理解ができる」(C+D 18.7%、E 3.7%)
であり、子どもの主体的な学びへの評価、また学習状況やキャリア・パスポートの理解については、低い数値となっている。

[3]地域

肯定的回答が特に多かった項目は、
「学校は、安心・安全な学校づくりを進めている」(A+B 91.3%)
「本校の生徒は、交通ルールや社会マナーを守っている」(A+B 86.9%)

一方で、否定的および「分からない」という回答が多かった項目は、
「学校運営委員会は活動を周知し、役割を果たしている」(C+D 21.7%、E 47.8%)
「『学び舎』の活動について、情報が提供されている」(C+D 21.7%、E 17.4%)

これらの回答結果から、学校としての方針や教育内容等の地域への情報発信を、さらに充実させていくことが必要だと考える。

3 学校への提言

以上の「学校関係者評価アンケート」の分析に加えて、教職員対象の「学校評価(自己評価)」の集計結果を踏まえ、本委員会として来年度に向けた提言を以下のように行う。

I 重点目標への取組

重点目標に関する生徒向け設問3項目のうち、
「私は、主体的に(計画的に、調整をしながら、粘り強く)学習に取り組んでいる」(A+B 70.1%)
「私は、『自分の将来について考え、目標を持ち、実現のための努力をしている』(A+B 68.4%)
の2項目の肯定的回答が8割未満となっている。
『未来につながる実力の世田谷中 ～“世田谷中プライド”を胸に～』という学校スローガンの実現に向けて「生徒の主体的な学びを支え、学びの自立を図る」とともに「自らの学習や生活を中・長期的な視点で見つめ、キャリア発達を促す」との重点目標をさらに意識した、日常の教育活動の充実を期待する。

II 教職員の働き方改革の推進

教職員学校評価(自己評価)の「学校としての働き方改革は進んでいる」の肯定的回答は80.5%で、昨年度より10ポイント以上向上している。それに連動して、保護者の「本校では働き方改革が進んでいると思う」という設問の肯定的回答も昨年度比、9.3ポイント上昇している。
質の高い教育活動を推進するためには、それらに携わる教職員が十分に力を発揮できるための教育環境の整備が不可欠である。今後も引き続き、教職員がライフワークバランスを大切にしながら教育活動を推進することで、生徒・保護者・地域から信頼される学校運営を期待する。

4 終わりに

世田谷中学校は通常の学級に加え、知的固定特別支援学級の双葉学級、自閉症・情緒固定特別支援学級のI組、学びの多様化学校の分教室「ねいろ」と多様な学級を抱えている。生徒数、教職員の人数も多く、他校と比べてもその分学校運営上の課題も多く抱えていることと思われる。そんな中、前田浩校長の強いリーダーシップの下、教職員が一丸となって日々の学校運営に尽力してことに敬意を表す。
学校教育目標のさらなる具現化に向け、生徒が自らの可能性を信じ、夢や目標の実現に向けて前向きに努力できる学校、それらを支える教職員が一丸となって日々の教育活動を推進していく学校、保護者・地域から信頼される学校の実現に向け、引き続き努力を重ねていくことを期待している。

令和7年度 世田谷区立世田谷中学校 学校関係者評価委員会

委員長：吉田 秀敏 委員：木村 美紀 委員：土屋 美良
委員：室田 久子 委員：由良 孝江 事務局：新妻 弘樹